

推薦入学選考Ⅰ期 国語「基礎学力調査」(一日目)

【一】 次の文章を読んで、後の問い(問一～十三)に答えなさい。

もう大分前になるけれど、大津からふたりの女性が仕事で出てきた。残ったわずかばかりの時間で東京見物をしたいとい
うので、わたしは新宿の高層ビルを見せて帰したことがある。

いま一番東京らしいところといったら、ここ以上のところがあるとは思われない。わたしもマンションの七階から下界
を眺め、遠くに屹立^(ア)している高層ビルのグループをみつけると、東京に住んでいるうれしさのようなものを感じないでもな
い。

しかし自分の作品のなかで、あの高層ビルと四つに組むことがあるとはどうも考えられない。わたしの生活感覚のな
かでの都市は、細い路地、澱んだ川、屋根、屋根、そして車のクラクションの音である。

少女のころに、わたしは花柳界^(イ)の小路を歩くのが好きで、三味線の音のする家の方へ歩みよったり、なまめかしい女の出
入りするコウシド^(ロ)をいつまでも立ち止まって眺めていたりしたものである。

わたしはその後勉強^(ハ)していて、全く傾向を同じくするひとを文学者のなかに発見した。永井荷風である。彼ははつきり
と陋巷趣味^(ニ)で、どぶ板を鳴らして歩き、藪蚊のひどいウラタナに憧^(イ)れている。荷風自身は高官の息子で、大邸宅に成長した
人物だから、これは

A

とよりいい様がない。

彼は川も好きであった。隅田川は彼のさまざまな作品の根になっている。

B

には川がつきものである。ロン

ドンにはチームズが流れ、パリにはセーヌが流れている。京都には鴨川、金沢には犀川、浅野川がある。

荷風は晩年、毎日市川の住居から京成電車で浅草にあらわれ、吾妻橋の上から隅田川を眺めていた。

隅田川に育てられた作家には芥川龍之介がいる。彼の「大川の水」という作品を読むと、彼が生れ故郷の本所をいかに愛し、いかに隅田川を愛したかを知らされるだろう。彼は帝大生のころに山手線の田端に移転するのだが、最初木の多い高台の生活にとまどっている。たしかに彼の作品を貫く都会の匂いは、少なくとも田端ではない。

芥川と自分を比較するなどおこがましいけれど、小学校一年のとき隅田川のほとりの日本橋矢ノ倉町一番地から、同じく田端の高台へ移ったときのわたしの辛さも相当なものであった。降るような蝉時雨は耳をふさぎたいようだったし、明るすぎる戸外は歩く道をさがすのに骨を折った。わたしは下町の川の匂いのする場所でない⁴⁾と安住できない⁵⁾夕チらしく、わたしの白粉つけない顔もなじめなかったのである。

C 堀辰雄は、大川の匂いから脱出をとげた最初の作家であった。彼は軽井沢を愛した。軽井沢の近くで、いまはさびれた宿場の追分を愛した。彼の場合は現実の軽井沢であるよりは、わが胸に構築された幻の高原という方がいいかわからない。

大正十二年の関東大震災で、堀は竜巻で大川に放り出され、折よく近くにいた船に、小学校時代の同級生がいて、彼の差し出した棹の先につかまって一命をとりとめた。しかし堀の母の志気はこのとき水死する。堀の意識が大川を拒否し、高原へ脱出するのは、このことが原因であろう。

関東大震災のために東京は大変貌をとげた。バラックが建ち、文化住宅の氾濫となる。こうしたようすを嫌って関西へ移ったのが、谷崎潤一郎である。

谷崎は日本橋蛸殻町の生れだから、わたしの矢ノ倉町とは指呼の間である。東京を見捨てたというよりは、安っぽくなつた東京を嫌ったので、震災以前の東京を求めて関西に移ったのだ。文学者として潔癖な態度といえるかもしれない。

しかしそのあとで谷崎は D 見事に関西に眩惑される。東京より都市としての歴史は古く、伝統の魔力は文化

のあらゆる面にしみわたり、東京を忘れさせた。谷崎は中国に旅行したことがあるが、このときも相当に中国文化の影響を受けている。もともとナイーブなキャラクターなのであろう。

さて話はとぶがわたしの親戚が、大正のころに本郷菊坂上でやっていた高級下宿に、本郷菊富士ホテルというのがある。ここには谷崎潤一郎、宇野浩二、広津和郎をはじめ多くの文学者が長期滞在をし、ブندان史の上では注目すべき存在であった。

ここに住まった文学者たちの東京観を集約すると、自由とエキゾティズムであった。そして宿泊人の文学者は谷崎は別にして大方は、地方出身者であった。

東京出身の文学者が東京に求めるものとの違いがここにはつきり示されている。⁽⁷⁾東京出身の文学者たちは単純に、自分の幼児体験を追い、古きよき時代の東京をさがすのである。

第二次世界大戦のあと東京はシヨウドと化した。⁽⁸⁾震災で残ったわずかばかりの古い町なみもすっかりなくなつた。永井荷風が市川へ居をさだめたのは、焼け残つた市川に、かつての隅田川畔の風光に通うものを感じたからであった。

まして、人口が戦前の倍にふくれ上がり、コンクリートの箱のアラベスクとなつた一九八〇年代の東京、巨大化しすぎた東京を荷風が見たら、⁽⁸⁾こんどこそフランスへ逃げ出すかも知れない。

わたしは十年近く前に、荻窪の駅に近く、善福寺川のほとりの小さな家に移つた。荷風を愛し、ふるさとの隅田川を愛しているわたしの、川のそばに住みたいという生涯の願いを実現させたものである。

コンクリートで護岸された何の E もない川だけれど、水はふしぎにわたしの心を和ませる。一年に一度桜が散り川一面を覆つての花びら川になる日があるし、嵐の日の矢のように飛んでいく水流の表情も面白い。

文学者のなかにはその都市観が自己の文学に強力に投影される人たちのいるのを忘れることはできない。

(近藤富枝『東京の街と文学者』より)

〔問二〕 傍線部(あ)～(お)にあたる漢字を、次の各群の①～⑤のなかから、それぞれ一つずつ選びなさい。

(あ)	コウシド	①	交	②	孔	③	革	④	画	⑤	格
(い)	ウラダナ	①	店	②	棚	③	舎	④	廊	⑤	辺
(う)	タチ	①	館	②	質	③	仁	④	症	⑤	態
(え)	ブンダン	①	団	②	段	③	談	④	檀	⑤	壇
(お)	シヨウド	①	照	②	消	③	傷	④	焦	⑤	焼

〔問二〕

空欄

A

～

E

に入る最も適切なものを、次の各群の①～⑤のなかから、それぞれ一つずつ選

びなさい。

A	①	本性	③	悪癖	④	習慣	⑤	決断
B	①	平野	③	文学者	④	作品	⑤	荷風
C	①	ところが	③	なにより	④	もとより	⑤	わけても
D	①	あわれ	③	ものの	④	なべて	⑤	さまで
E	①	趣向	③	工夫	④	創意	⑤	才覚
	②	好み	③	悪癖	④	習慣	⑤	決断
	②	都市	③	文学者	④	作品	⑤	荷風
	②	それでも	③	なにより	④	もとより	⑤	わけても
	②	いかで	③	ものの	④	なべて	⑤	さまで
	②	風情	③	工夫	④	創意	⑤	才覚

〔問三〕 二重傍線部(ア)～(エ)の意味として最も適切なものを、次の各群の①～⑤のなかから、それぞれ一つずつ選びなさい。

(ア) 屹立している ① たくさん立っている ② 他を圧倒している ③ 霞んで見えにくくなっている

④ 高くそびえている ⑤ はつきりと見て取れる

(イ) 花柳界 ① 芸者や遊女たちの世界 ② 花々が植えられた地域 ③ 船着き場のある川沿い

④ 芝居小屋のある地区 ⑤ 桜が満開の頃の下町

(ウ) おこがましい ① 恥ずかしい ② 余計なことである ③ 誇らしい

④ 照れくさい ⑤ 生意気である

(エ) 指呼の間 ① 距離が近い ② 隣接している ③ 遠く離れている

④ 差がはつきりしている ⑤ 格式が違う

〔問四〕 傍線部(1)「東京に住んでいるうれしさのようなものを感じないでもない」とあるが、ここから読み取れる筆者の心

情として最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

① 東京に住んでいると、うれしいようなそうでないような、微妙な感情を抱かずにはおれない。

② 高層ビルが数多くある東京に住むことを人はうれしいというが、自分はそんなふうには感じていない。

③ 東京住まいはうれしいでしょうと人は言ってくれるので、昔と違ってしまっても東京が好きである。

④ 東京はすっかり変わってしまったって残念だが、変化した東京を象徴するものが受け入れられないわけではない。

⑤ 友人たちに高層ビルを見せてうれしがる自分だが、それが東京らしさのシンボルだとは思っていない。

〔問五〕

傍線部(2)「あの高層ビルと四つに組む」とあるが、その意味するところとして最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 高層ビルを撤去して、昔の風景を取り戻す。
- ② ビルを四つ組み合わせたほどの高いビルを建設する。
- ③ 高層ビルのある街で人間関係を築いていく。
- ④ 高層ビルがテーマになっている作品をつくる。
- ⑤ 四棟を建築して、ビル街を形成する。

〔問六〕

傍線部(3)「陋巷趣味」とあるが、それにあてはまるものとして最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 文化住宅
- ② 隅田川
- ③ 明るすぎる戸外
- ④ 震災で残ったわずかばかりの古い町なみ
- ⑤ 木の多い高台

〔問七〕 傍線部(4)「わたしの辛さも相当なものであった」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、次の①～⑤のな

かから一つ選びなさい。

- ① 田端では、しょっちゅう時雨が降って濡れてしまっていたから。
- ② 田端には白粉つけない女たちしかおらず、筆者はそれを好まなかったから。
- ③ 田端は矢ノ倉町を流れていた川の上流にあるのに、田端の方が下町らしかったから。
- ④ 田端の町は矢ノ倉町よりも陽射しがあるのに木蔭に乏しく、暑くなりすぎるから。
- ⑤ 田端には、筆者が子どもの時代から慣れ親しんできた下町らしいところがなかったから。

〔問八〕 傍線部(5)「わが胸に構築された幻の高原」とあるが、どういう意味か。最も適切なものを、次の①～⑤のなかか

ら一つ選びなさい。

- ① 大川の匂いのする地域とは対照的な、堀辰雄が追い求めた理想化された高原。
- ② 大川の流れの傍に昔はあったものの、いまは開発され消えてしまった高原。
- ③ 筆者(近藤)が訪れることを望んでいた、にぎやかだったころの昔の高原。
- ④ 堀辰雄が筆者(近藤)に語って聞かせたために、筆者が憧れるようになった高原。
- ⑤ 筆者(近藤)が堀辰雄の作品に刺激され、頭のなかに描いた想像上の高原。

〔問九〕

傍線部(6)「文学者として潔癖な態度といえるかもしれない」とあるが、筆者は谷崎をどう捉えていると考えられるか。最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 伝統のある都会で生きて都会的作品を書いたからこそ、東京に代わる都会を求めた。
- ② 安っぽくなってしまった東京の不潔になりゆく環境に、耐えることができなかった。
- ③ 東京の清潔レベルより関西の清潔レベルの方が上であることに気がついた。
- ④ 震災後に多くの人が東京から関西に移住したことに影響され、潔く東京を離れた。
- ⑤ ナイーブでなければ文学者は大成できないと信じ、東京を嫌いになっていった。

〔問十〕

傍線部(7)「違い」として最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 地方出身者は東京での自由な生活を讃えるが、東京出身者はそうではない。
- ② 地方出身者は本郷菊富士ホテルに集まってきたが、東京出身者はそこには集まらなかった。
- ③ 東京出身者は東京よりも歴史が深く伝統的な関西に幻惑されたが、地方出身者はそうではない。
- ④ 東京出身者は彼らが子どものころの風景や経験を懐かしみ、地方出身者はそんな昔の東京を嫌う。
- ⑤ 地方出身者は東京をエキゾチックなものとするが見るが、東京出身者は懐かしいものとして見る。

〔問十二〕 傍線部(8)「こんどこそフランスへ逃げ出すかも知れない」とあるが、ここから推測できることとして適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 荷風はかつて一度、フランスに逃げようとして連れ戻されたことがある。
- ② 荷風は実は、いままで一度もフランスに行ったことがない。
- ③ フランスは人情に厚い人々の住む国で、荷風はそこに魅了されていた。
- ④ 荷風はフランスの街のなかに、彼の好きな東京の姿に似たものを見ていた。
- ⑤ 良家の子弟として生まれた荷風は、フランスに永住することを願っていた。

〔問十三〕 谷崎潤一郎の作品として正しくないものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 『春琴抄』
- ② 『刺青』
- ③ 『細雪』
- ④ 『曾根崎心中』
- ⑤ 『瘋癲老人日記』

〔問十四〕 芥川龍之介の作品でも永井荷風の作品でもないものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 『或る阿呆の一生』
- ② 『澤東綺譚』
- ③ 『奉教人の死』
- ④ 『断腸亭日乗』
- ⑤ 『風立ちぬ』

【二】 次の文章を読んで、後の問い（問一～十四）に答えなさい。

元号とともに日本で使われている西暦（キリスト生誕紀元）。この2つ以外に、もう1つ日本コユウの紀年法があるのをご存じでしょうか。若い方のなかには、知らない人もいるかもしれません。その名を皇紀（神武天皇即位紀元）といいます。これはみなさんも楽しみにしている祝日のひとつ、建国記念の日とかわわっています。

1966年に制定された建国記念の日ですが、日本の「建国」とはいったいいつのことを指すのでしょうか。卑弥呼の時代でしょうか、それとも倭の五王の時代？ 正解は神武天皇という、日本の初代天皇とされる人が即位した年のことを指します。

『日本書紀』によると神武天皇は、「辛酉年春正月庚辰朔」の日に奈良の橿原宮で即位したとされます。この日をグレゴリオ暦で換算すると紀元前660年2月11日となります。ここを紀元とするのが皇紀という紀年法です。

皇紀は西暦を基準として太陽暦で規定されています。太陽暦換算の2月11日は戦前では紀元節と呼ばれ、戦後は国民の祝日に関する法律で建国記念の日となりました。

ではこの皇紀はいつから使われていた暦なのでしょうか。実はこの皇紀、旧暦から新暦に変わる改暦の詔勅が出た直後、明治5年（1872）11月15日に太政官布告（公式な法令）で制定されています。

「太陽暦御頒行神武天皇御即位ヲ以テ紀元ト被定候ニ付其旨ヲ被為告候為メ来ル廿五日御祭典」とあり、つまり神武天皇の即位を元年と定め、これを「神武天皇即位紀元」とメイメイしました。そして、後にそれを縮めて「神武紀元」や「皇紀」と呼ぶようになりました。ただ、法令で定めを受けたのはこの時ですが、江戸時代からその存在を知られてはいました。とはいえ、公認されていなかったのです。

では、なぜ皇紀が公認されるに至ったのでしょうか。それは、暦が一世一元の「明治」だけでは不十分だと考えた人が明治初期にいたからです。

その人の名前は津田真道つだまみちといひます。刑法官権判事けいほうかんけんはんじという役職(c)にツいていた津田は、明治2年4月に集議院しゅうぎいんに対し、年号をやめて、ずっと I ことのないひとつの暦を建てるべきと申し立てをおこなっています。これが皇紀の事を指しています。

その前年、政府は明治天皇の勅裁を仰ぎ、一世一元の制度をはじめていましたが、それだけでは不十分であると津田は考(3)えました。

なぜならば外国に目を向けると、ヨーロッパにはキリスト生誕紀元がありますし、イスラームではヒジュラ紀元の暦を使っています。ユダヤ教徒は天地ソウゾウ紀元(d)、天地開闢紀元(d)五千何年というようなものまで使っていたのです。このような長い歴史をもつ国々と渡り合うためには、日本はこれでは勝負できないと考え、津田は神武天皇即位を紀元とする暦を公に使うべきだと主張したのです。

また、たとえば文久4年と言われてすぐにそれが何年前と答えられる人は多くないでしょう。ですが1864年と言われれば、すぐに何年前のことかわかります。中国から入ってきた元号(4)でこれからも複雑に時間を数えるより、西洋諸国が一般的に使っている長期的紀年法(ある一定の年を紀元とし、そこから長期的に年を数える方式)を使用した方がより便利で、これから西洋と渡り合っていくためには欠かせないという考えでした。

実(5)はこれと似たような動きは、それより前の幕末にも存在していました。天保11年(1840)には、水戸学者だった藤田東湖とうこという人が、この年が神武天皇即位2500年であることを記念して、「鳳曆二千五百年春……」という漢詩をつくっていました。また、津和野藩の国学者の大国隆正たかまさという人は、安政2年(1855)に II 本のなかで、神武天皇の即位を元年とする「中興紀元(ちゆうきゅう)」というものを提案していました。開国が攘夷じやういか、尊王か討幕かで揺れていた幕末に、皇紀が王政(e)フツコや尊王攘夷の思想と結び付いたのだと思われまます。

津田真道は、 III をやめて皇紀を使うべきだと主張しましたが、他方、明治という年号は残して併用するべきだという意見もありました。そうすると今度は、併用するなら皇紀と明治のどちらがメインで、どちらがサブなのかという問

題が生じてくるなど、懸念事項が残ってしまいました。

そのような紆余曲折^(X)の議論を経て、明治6年1月9日に政府は、立法院である左院に紀元・年号の問題を審議してもらったのです。明治改暦のたった8日後のことでした。そして、審議の結果はまさかの、「紀元のみ使用」との回答でした。つまりは、もう明治などという年号を廃止して皇紀のみを使うべしということです。

予想していなかった回答に政府は大慌てで、明治と皇紀の併用案を再度提出し、それを法律で定めたのでした。もしこれがなければ、現在元号は使われていなかったかもしれません。

この法律を受け、明治政府は年号と皇紀について、国書・条約・証書から私用に至るまでの使用例を細かく規定しました。例を挙げると、まず正式な文書には、皇紀と年号を併記しなければなりません。略式の場合や私的な文書の場合には、どちらか片方でもよいということになりました。国の条約などの場合には、併記することが原則となりました。

平成6年には「公文書の年表記に関する規則」ができ、「公文書の年の表記については、原則として元号をもちいるものとする。ただし、西暦による表記を適当と認める場合は、西暦を併記するものとする。」と認められました。また、2019年の改元をきっかけに、省庁で使われているデータは西暦で統一するという考えが政府から示されました。

しかし、この法律の制定後、元号に関する法律の制定はありましたが、IV⁽⁶⁾に関する新しい法律は定められていません。つまり、現在も長期的紀年法としては、皇紀が日本の法制上では原則として認められている紀元なのです。あまり知られていませんが、閏年を決めるときには、西暦ではなく皇紀をもちいて決定されています。

西暦、つまりキリスト生誕紀元は、日本で市民権^(Y)を得てさも当たり前のようになっていますが、実はデファクト・スタンダード（事実上の基準）に近いのです。デジュリ・スタンダード（法律が定めた基準）としては、先述の「公文書の年表記に関する規則」などの規定で西暦は併記を認められているものの、元号が基本です。ただ、だからといって、西暦⁽⁷⁾がだめで元号を使えばいいということはありません。

歴史学のなかでも、とくに元号にかかわるテーマの第一人者である所功先生^(Z)は、2018年8月におこなわれた改元・元

号に関する討論のなかで次のように述べています。

「あえて言いますと、元号は文化としてのローカリティなものですし、西暦などはかなり文明的な広がりをもつものですが、V『V』ではなくて文化と同時に文明も必要である、文明も重要だけど文化も必要だという観点から考えると、どのように併記していくかということになるかと思えます」

所先生の意見のように、どれかを生かしどれかを切り捨てるのではなく、それぞれのよい部分を生かし使い分けていくことが重要であると思われまます。

*注…集議院とは1869年から1873年まで設けられていた立法府をいう。

(中牧弘允『世界をよみとく「暦」の不思議』より)

〔問二〕 傍線部(a)～(e)にあたる漢字を含む熟語を、次の各群の①～⑤のなかから、それぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|-----|-------|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| (a) | コユウ | ① | 太古 | ② | 頑固 | ③ | 愛顧 | ④ | 個別 | ⑤ | 戸別 |
| (b) | メイメイ | ① | 王命 | ② | 悪名 | ③ | 銘文 | ④ | 明白 | ⑤ | 迷宮 |
| (c) | ツいていた | ① | 去就 | ② | 発着 | ③ | 添付 | ④ | 尽力 | ⑤ | 継承 |
| (d) | ソウゾウ | ① | 首相 | ② | 奇想 | ③ | 壮大 | ④ | 衣装 | ⑤ | 独创 |
| (e) | フツコ | ① | 福生 | ② | 沸騰 | ③ | 反復 | ④ | 転覆 | ⑤ | 感服 |

〔問二〕 空欄 I に入る最も適切なものを、次の各群の①～⑤のなかから、それぞれ一つずつ選

びなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|-----|----------|---|----------|---|----------|---|----------|---|----------|---|---------|
| I | 栄える | ① | 衰える | ② | 変わる | ③ | 広がる | ④ | 始まる | ⑤ | 始まる |
| II | 表した | ① | 現した | ② | 著した | ③ | 顕した | ④ | 刷した | ⑤ | 刷した |
| III | 西暦 | ① | 元号 | ② | 紀元 | ③ | 紀年 | ④ | 紀年 | ⑤ | 旧暦 |
| IV | 西暦 | ① | 元号 | ② | 紀元 | ③ | 紀年 | ④ | 紀年 | ⑤ | 旧暦 |
| V | どっちもどっちだ | ① | どっちもどっちだ | ② | どちらかが便利か | ③ | どちらかだけいい | ④ | どちらかだけいい | ⑤ | どちらも活かす |
| | どちらもいらない | ④ | どちらもいらない | ⑤ | どちらかだけいい | | | | | | |

〔問三〕 破線部(X)「紆余曲折の」、(Y)「市民権を得て」を言い換えた場合、最も適切なものを次の各群の①～⑤の中から

それぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | |
|-----|--------|--------|---------|---------|----------|---------|
| (X) | 紆余曲折の | ① 複雑な | ② 政治的な | ③ 不毛な | ④ 穏当な | ⑤ 極端な |
| (Y) | 市民権を得て | ① 定着して | ② 黙認されて | ③ 人気を得て | ④ 適法化されて | ⑤ 評決されて |

〔問四〕 次の①～⑤の出来事のなかで、年代的に現在に最も近いものを、次から一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|---|------------|---|-------------|---|----------------|
| ① | 一世一元の制度の開始 | ② | 神武天皇即位2500年 | ③ | 左院での紀元・年号問題の審議 |
| ④ | 皇紀制定 | ⑤ | 津田真道による申し立て | | |

〔問五〕 傍線部(1)「その存在」とあるが、何の存在であるか。最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- | | | | |
|---|------|---|---------|
| ① | 初代天皇 | ② | 神武天皇即位年 |
| ③ | 紀元節 | ④ | 御祭典 |
| ⑤ | 太陽暦 | | |

〔問六〕 傍線部(2)「公認される」のここでの意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 多くの国民に賛成される
- ② 法律で定められる
- ③ 多くの国民に周知させる
- ④ 資格が与えられる
- ⑤ 文書として整えられる

〔問七〕 傍線部(3)「それだけでは不十分であると津田は考えました」とあるが、なぜそう考えたのか。最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 年号が明治だけでは世界に通用せず、西暦も併用する必要があるから。
- ② 一世一元の制度ははじめられたばかりであるため、定着するには時間が必要だから。
- ③ 長い歴史をもつ国々に対して、日本はその長い歴史を示す手段を有していなかったから。
- ④ 長期的に年を数える場合には、中国から入ってきた元号を用いた方がより便利だから。
- ⑤ 勅裁を仰ぐ制度は複雑であるため、西洋と渡り合うにあたり、立法機関が足りないから。

〔問八〕 傍線部(4)「これから」とあるが、何からなのか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① キリスト生誕
- ② ヒジユラ
- ③ 天地開闢
- ④ 明治初期
- ⑤ 文久4年

〔問九〕 傍線部(5)「これ」とは何を指しているか。最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 政府が西洋と渡り合っつていこうとしていること。
- ② 津田が神武紀元の使用を主張したこと。
- ③ ヨーロッパやイスラーム、ユダヤ教徒が長期的な暦をもつこと。
- ④ 神武天皇即位の年を太陽暦で換算すること。
- ⑤ 神武天皇即位を記念して詩をつくること。

〔問十〕 傍線部(6)「この法律」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 皇紀と明治のうち、どちらをメインとするかを定めたもの。
- ② 左院での審議の結果、紀元のみ使用することを定めたもの。
- ③ 元号とともに皇紀も用いることを定めたもの。
- ④ 年号記載について、国書から私用に至るまで、細かく定めたもの。
- ⑤ 慌てた政府が再提出した、元号と明治の併用案。

〔問十二〕 傍線部(7)「西暦がだめで元号を使えばいいということではありません」とあるが、こう述べられる理由として最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 元号の使用は法律で定められているが、西暦も法律で定められることになっているから。
- ② キリスト教紀元の西暦は、元号と併記されなければ日本人には理解できないから。
- ③ 西暦が文明的である一方で元号はローカリティなものだと考えれば、文明を優先させるべきだから。
- ④ 日本の文明の典型である元号と、西暦というキリスト教文化との間には、優劣をつけがたいから。
- ⑤ 文明的な広がりをもつ西暦も文化としての元号も、日本人にはどちらも重要であり必要なものだから。

〔問十二〕 元号に関する記述として適切ではないものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 立法府によって廃止を主張されたことがある。
- ② いま公文書では、西暦と並んで記載されなければならない。
- ③ 皇紀とは直接的な関係を持たない。
- ④ 一世一元の制度における「元」のことである。
- ⑤ 皇紀と並んで、法制上認められている。

〔問十三〕 本文中に類出する「紀年」の意味として、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 過去の偉大な出来事や人物を歴史に刻むこと。
- ② 行事の日程などを一年間のスケジュール上に記録すること。
- ③ 新しい年号を何にするかと議論すること。
- ④ 時間の流れを一年単位で数えていくこと。
- ⑤ 歴史の始まりを確定すること。

〔問十四〕 本文の内容と合致しないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 所功氏が元号と西暦の併記に異議申し立てをしていないのは、それぞれに良い部分を認めているからである。
- ② 日本において西暦はデファクト・スタンダードに近いが、皇紀はデジュリ・スタンダードである。
- ③ 旧暦から新暦への明治の改暦は明治6年1月1日のことで、皇紀の制定はその前年のことであった。
- ④ もし政府が明治6年1月9日に左院に審議依頼をしていたなら、現在元号は使われていなかっただろう。
- ⑤ 世界の国々と勝負をするため、津田は日本が長い歴史をもつことをアピールする必要があると考えていた。

【解答例】

入試年度 : 2020
入試種別 : 推薦入学選考
I期 1日目
科目 : 国語

問No.	解答番号
1	5
2	1
3	2
4	5
5	4
6	2
7	2
8	1
9	3
10	2
11	4
12	1
13	5
14	1
15	4
16	4
17	4
18	5
19	1
20	1
21	5
22	4
23	4
24	5
25	2

問No.	解答番号
26	1
27	1
28	5
29	3
30	3
31	3
32	2
33	1
34	5
35	1
36	1
37	3
38	2
39	2
40	3
41	4
42	2
43	3
44	5
45	2
46	4
47	4
48	—
49	—
50	—